香川県高等学校PTA連合会

# 香川県高P連だより 第1号

平成26年10月1日発行　発行・編集／香川県高等学校PTA連合会事務局　高松市西内町7番11号　香川県高等学校PTA会館内
TEL.087-851-4614　FAX.087-851-4628　E-mail:ka-koup@mxi.netwave.or.jp

## 会長あいさつ

香川県高等学校ＰＴＡ連合会
会長　泉　満

平素より皆様方には香川県高等学校ＰＴＡ連合会の活動に多大なるご支援、ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

本連合会は今年で63年を迎えました。この歩みを支えていただいたのは、先人の皆々様の熱意とたゆみないご尽力の賜物と存じ、深く敬意を表します。

私は、高Ｐ連会長就任から早いもので3年目になります。就任以来の多くの方々との出会い、そしてこれからの新しい出会いは私にとって貴重な財産であり、重責ではありますが、感謝をしつつ皆様と力を合わせてＰＴＡ活動に取り組んでまいる所存です。

本会では広報活動の新規事業として、このたび「香川県高Ｐ連だより」を発行いたしました。今回が第1号となります。本会活動及び県下各校の特色ある教育活動やＰＴＡ活動の内容を紹介し、本会及び各校間の情報交換を図ってまいりたいと考えております。そして、ＰＴＡの皆様方が諸問題に取り組むうえで参考にされ、また互いに知恵を出し合い、共に考え解決していくことができればと願っております。

さて、２０１１年３月11日、日本は未曾有の大震災に見舞われました。東日本大震災です。そして追い打ちをかけるかのような原発問題。当時、誰もが日本の未来を絶望しかけたとき、被災地の若者に日本の復活の光、希望を見たことを覚えています。避難所で老人に声をかけている高校生、自らが被災者にもかかわらず避難所で物資を運んでいた高校生。震災前の日本では、一見個人主義が横行し、武士道のような日本人の精神的美徳は完全に失われていたように思えました。しかし当時、震災で日本人が見せた振る舞いは、形骸的な個人主義ではなく日本人の魂から発せられるものでした。

あの時より3年、未だ復興道半ばの今の日本は数世紀に一度の大転換期を迎えています。民族、宗教、文化を越え、かつ、環境と共生する地球市民社会という新しいパラダイムの転換が求められているのです。このような混沌とした時代には必ず次の時代への橋渡しとなる若者が彗星のごとく現れ、日本を動かしてきました。地位や名声にとらわれることなく自分の信念を貫く、そんな若者を時代は求めています。ここ香川県より、困難な時代を切り開く若駒が今まで以上に輩出されんことを期待してやみません。

高Ｐ連といたしましても、先生方の『教え』と私たち保護者の『育み』により、子どもたちの成長を支援していきたい。そのためにも各単位ＰＴＡ・高Ｐ連がそれぞれの役割と責任を自覚し、活動を続けてまいりたいと考えております。保護者の皆様におかれましても、今まで以上にＰＴＡ活動に積極的に参加していただきますようお願い申し上げます。

## PTA NEWS

### 平成28年度 香川大会日程決定！

**高Ｐ連より**
**第58回中国・四国地区高等学校PTA連合会大会香川大会**

●期　日　平成28年7月15日（金）　●会　場　アルファあなぶきホール　大ホール
●参加者　中国・四国地区高等学校PTA会員　約1,800名

**高Ｐ連より**（（一財）香川県高等学校教育振興会主催）
**第21回大学・専門学校訪問研修会**

●期　日　平成26年10月17日（金）・18日（土）
●訪問校　立命館大学、同志社大学、佛教大学、京都調理師専門学校

**全国高Ｐ連より**
**「東日本大震災」義援金報告と募金活動の継続**

平成25年度の募金額は総額4,108,689円となり、福島県高Ｐ連へ第６次配分として贈呈されました。震災発生から３年以上経過しましたが、被災地の復旧・復興は依然として道遠く、全国高Ｐ連では、義援金の募金活動を継続します。（この募金活動は本県を始め全国の各単Ｐから募り、被災地の高Ｐ連に贈呈されています。）

**県教育委員会より**
**かがわ子どもの読書ネットワークフォーラム**

子どもの読書活動に取り組む団体のネットワーク化を図る。
●日　時　平成27年1月18日（日）　13:00～16:30
●会　場　アルファあなぶきホール　大ホール
●内　容　講演　講師　阿刀田 高　氏
パネルディスカッション

**県教育委員会より**
**親育ち応援フォーラム（仮称）**

子育て真っ最中の若い保護者などに対して躾の大切さを訴え、理解啓発を図る。
●日　時　平成27年2月11日（水・祝日）　13:30～16:15
●会　場　三木町文化交流プラザ
●内　容　講演　講師　親野 智可等　氏
パネルディスカッション

目次

会長あいさつ ……1
PTA NEWS ……1
平成26年度香川県高等学校PTA活動推進功労者表彰式及び高P連総会 …2
一般財団法人香川県高等学校教育振興会定時評議員会
PTA会長等研修講演会報告 ……2
PTA活動紹介 ……3
小豆島高校、香川東部養護学校
第56回中国・四国地区高P連大会高知大会報告 …4
第64回全国高P連大会福井大会報告 ……4

# 平成26年度 香川県高等学校PTA活動推進功労者表彰式及び高P連総会
# 一般財団法人香川県高等学校教育振興会定時評議員会

6月11日、アルファあなぶきホールにおいて、平成26年度PTA活動推進功労者表彰式、高P連総会及び一般財団法人香川県高等学校教育振興会定時評議員会が開催されました。

表彰式では、西村県教委理事を始め、県教育委員会、関係団体等のご来賓のご臨席をいただきました。

今回退任されたPTA活動推進功労者として、表彰状39名、感謝状51名、県連本部功労者9名が受賞され、泉　満会長から賞状と記念品が贈られました。来賓祝辞のあと、受賞者を代表して三本松高校PTA会長であり、本会副会長であった松崎朝浩様が謝辞を述べて式は終了しました。

高P連総会においては、

○25年度事業報告
○25年度収支決算、監査報告
○26年度事業計画案
○26年度収支予算案
○26年度役員の選任
○「香川県高P連だより」の発行について
○第56回中四国地区高P連大会(高知大会)について
○第64回全国高P連大会(福井大会)について
○28年度第58回中四国地区高P連大会(香川大会)について

の議案について、本会役員より説明・報告の後、審議され全議案が承認されました。

続いて、教育振興会定時評議員会においては、

○25年度事業報告
○25年度収支決算、監査報告
○理事及び監事の任期満了に伴う改選
○定款の一部変更について

の4議案が滞りなく議了したのち報告事項に移りました。

○26年度事業計画
○26年度収支予算
○公益事業について

以上をもって会は終了しました。

## 役員名簿　平成26年度　一般財団法人香川県高等学校教育振興会

| 役職名 | 氏　名 | 所属校 | 所属校役職名 |
|---|---|---|---|
| 理事長 | 泉　満 | 高松南 | 顧問 |
| 常務理事 | 井上　直樹 | 振興会事務局 | 事務局長 |
| 理事 | 市原　伸作 | 高松 | 校長 |
| | 横山　賢治 | 高松商業 | 校長 |
| | 香川　泰造 | 観音寺第一 | 校長 |
| | 竹本　惠一 | 高松第一 | 校長 |
| | 吉田　莞爾 | 高松中央 | 校長 |
| 監事 | 鵜川　耕司 | 高松西 | 会長 |
| | 藤原　力 | 丸亀城西 | 会長 |

## 役員名簿　平成26年度　香川県高等学校PTA連合会

| 役職名 | 氏　名 | 所属校 | 所属校役職名 |
|---|---|---|---|
| 会長 | 泉　満 | 高松南 | 顧問 |
| 副会長 | 松村　猛 | 三本松 | 会長 |
| | 小林　康則 | 香川中央 | 会長 |
| | 市原　伸作 | 高松 | 校長 |
| 理事 | 丸谷　照代 | 石田 | 校長 |
| | 林　昌子 | 高松工芸 | 会長 |
| | 植田　昌和 | 坂出工業 | 会長 |
| | 西本　昌嗣 | 丸亀 | 会長 |
| | 森末　文徳 | 善通寺第一 | 会長 |

| 役職名 | 氏　名 | 所属校 | 所属校役職名 |
|---|---|---|---|
| 理事 | 香川　泰造 | 観音寺第一 | 校長 |
| | 三宅　泰弘 | 観音寺中央 | 会長 |
| | 吉田　莞爾 | 高松中央 | 校長 |
| | 栗林　哲 | 坂出第一 | 校長 |
| | 森　雅登 | 盲 | 校長 |
| 常務理事 | 井上　直樹 | 高P連事務局 | 事務局長 |
| 監事 | 鵜川　耕司 | 高松西 | 会長 |
| | 藤原　力 | 丸亀城西 | 会長 |
| 顧問 | 綾田　福雄 | 元高P連会長（大手前高松） | 顧問 |

# PTA会長等研修講演会報告

「日本社会の変容と教育の課題」東京大学大学院教育学研究科教授　本田 由紀　氏

県教育センターとの共催事業である『PTA会長等研修講演会』が、7月29日、ミューズホールにおいて開催されました。

今年度は、「日本社会の変容と教育の課題」と題して、本県出身者の東京大学大学院教育学研究科教授、本田由紀氏による講演でした。

本田先生は、徳島県の生まれですが、生後すぐから県立高松高校卒業までを香川県で過ごし、東京大学卒業後、2008年より同大学院教授として活躍され現在に至っています。この間、数多くの著書を刊行され、特に、2006年に刊行した「ニートって言うな」は大きな反響を呼びました。

今回の講演では、「教育の現状と見失われた学びの意義」の中で、現在の生活や将来の仕事に役に立つ具体的な知識や技能を形成する学校において、「**教育時間の少なさ**」と高校生の「**学習意欲の低さ**」が、教育の大きな課題であると指摘されました。

まず、「**学校教育の時間の少なさ**」については、「第2回OECD国際教員指導環境調査（TALIS）2013年『教員の仕事時間』」のデータを基に、日本の教員の仕事時間の中で一般的事務業務、及び課外活動指導時間が世界の教員と「通常の一週間」の平均を比較した場合、2～3倍と際立って高く、学校における教員の教育以外の業務の多さを指摘し、これらの背景にある「教員の多忙さと職務範囲の無限定さを解消すべきである」と提言しました。

次に「**学習意欲の低さ**」については、高校生に対するアンケート調査（理由）の結果、自分の適性や就きたい職業、進みたい専門分野がわからないため、勉強する意義や意欲がわかないと半数以上が回答した。この大きな要因として、高校教育が普通科に偏っている現状があり、その見直しが急務であると指摘し、「生徒の適性を見極め、進みたい分野（職業科教育）の充実を図り、日本社会の変容に対応できる『高校教育の変革』が必要である」と提言しました。

本田先生のデータに基づく熱心な講演に、頷きながら聞き入る方の姿を多く見かけ、充実した研修講演会が開催できたことを報告します。

# PTA活動紹介

## 小豆島高校

正門から続く銀杏とアメリカンポプラの並木通り、その先に校舎が見え、まず最初に南グラウンドから聞こえる野球部員の声が出迎えてくれます。校舎から見える風景は、南に、『二十四の瞳』の舞台となった田ノ浦半島と内海湾、その先端にある岬の分教場。北には四季彩に変化する寒霞渓。海と山に囲まれた豊かな自然の中で育まれた小豆島の生徒たちは、文武両道で頑張るとともに、地域の人たちに感謝の気持ちを伝えるために、さまざまな活動に取り組んでいます。

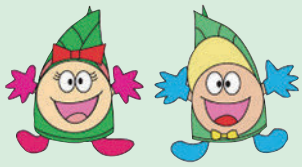
5月、3歳から5歳の園児を迎え、手をつなぎ、時には園児を抱きかかえ競技する体育祭。地域の商工会や自治会との交流の場でもある醤の郷まつりやオリーブ収穫祭、オリーブマラソン大会の接待（おもてなし）。また、近くを流れる片城川の清掃活動のボランティア等も行っています。

全定合わせて生徒数300人の学校ですが、島の子どもたちに驚かされることは、学年を超え、クラス間に壁を作らず、協力し合い、助け合い、励まし合い、相手にエールを送りながら互いに互いを高めあうところです。島の風土、文化が、その気質を培ってきたのかもしれません。

PTAとしては、体育祭の玉入れやフォークダンスに参加するなど学校行事にも関わってきましたが、子どもたちの健全育成のためにさらに積極的に活動したいとの声が高まり、昨年度の文化祭では校章の紅葉を簡略デザイン化した7色のカードを作り、「親から子どもへの一言メッセージ」と題し、文化祭のテーマでもある『Rainbow Arch』のモニュメントを作りました。親子にしか分からないようにペンネームを書いていたので、何人もの子どもたちが足を止め、メッセージカードを探し、じっと読んでいる姿が印象的でした。今年の文化祭ではバザーを企画しています。生徒一人ひとりのために、何ができるのかを考えながら、教師と親が、それぞれの役割を果たすことが、大切なのではないでしょうか。

## 香川東部養護学校

昭和52年、知的障害児の学校として産声を上げ、長尾となじみ深い竹の子を模したシンボルキャラクター「たけくん・のこちゃん」がこれまで多くの子どもたちの成長を見守ってきました。現在小・中・高の三学部で合計135名が在籍し、歩みの違いはあれど、竹の子の如く日々成長を続けています。



三学部あることの利点を生かし、継続した支援のもと、子どもたちは社会生活に必要な力を身に付けることを一つの柱として、日々学習に励んでいます。その集大成的な学習として「現場実習」があります。これは、校内での作業学習を経て、実際の企業や福祉施設へ行き、より社会で必要な力を身に付けていく学習です。高2で2週間の実習を2回、高3で3週間の実習を2回、計4回10週間実施します。

高２現場実習（箱折り）

20分の徒歩での通勤で、ばててしまう生徒。うまくいかないイライラを人にぶつけてしまう生徒。職場で叱られて落ち込む生徒。仕事を覚えて積極的になる生徒。お客さんの一言に喜びを感じる生徒。家での夕食で疲れを癒す生徒。

実習を終えた生徒たちの顔は、自信に満ちあふれています。そして、新たな課題に向け、学習を重ねていきます。現場実習での成長がそのまま一般就労へと繋がっていく生徒もいます。

さて、保護者といえば、ただ指をくわえて成長を見守っている訳ではありません。学校行事のお手伝いはもとより、ベルマークをきれいに切る細かい作業や地域行事に参加して声を張り上げてのバザー活動など多々行っています。

そして、何よりも目まぐるしく変わる福祉情勢をしっかりと理解することは、在学中及び卒業後、福祉サービスを利用するためには必要不可欠であります。そのために、施設見学などの学習会や在住する市町へ質問や意見を述べる機会を設けています。

障害児・者を取り巻く環境は、十分に整っているとはまだ言えません。子どもたちの頑張り、そして成長を学校の中だけで終わらせないためにも、子どもと保護者が手をつなぎ、大きな輪となりながら、雨後の竹の子のように成長し続けていきたいと思います。

保護者の学習会（施設見学）

## 第56回 中国・四国地区高等学校PTA連合会大会 高知 大会報告

台風8号接近の中、開催県はもとより各県においても様々な心配はありましたが、7月11日（金）、日程を一部変更して高知県民文化ホールにおいて高知大会が開催され、香川県より36校69名が参加しました。

「緑の山から青い海へ」～夢をつないで未来へ～をテーマに、開会行事の後、名古屋商科大学硬式野球部監督（元PL学園野球部監督）の中村順司氏を講師に『野球と私』という演題で講演が行われました。桑田・清原の「KKコンビ」を始め、数々の超高校級の選手を育てた名将の甲子園大会での秘話には心温まるものがあり、座右の銘である「球道即人道」に、野球を通しての人間形成という強い意志を感じました。

昼食は、「とさっ子駅弁開発プロジェクト」プロデュースの『とさべん』を美味しくいただき、その後、研究協議が行われ、島根県立松江北高校PTA副会長布野由美氏による「家庭教育とPTA」～歴史と伝統がはぐくむキャリア教育～、山口県立防府商工高校PTA会長　財満謙太郎氏による「生徒指導とPTA」～特色ある学校づくりを通しての生徒指導～、高知県立嶺北高校PTA副会長　高石清賢氏による「高校再編とPTA」～「プロジェクト41」地域振興の要は健全な高校存続～と題して、それぞれの地域の特性に応じた実践発表がありました。どの学校にも課題がありますが、PTAが自ら進んで参加し、自ら学び、熱意ある活動を展開していることに意味と価値があると考えさせられました。その後活発な質疑応答が行われました

閉会行事では、中国・四国地区高P連　生永慎一会長の挨拶の後、次年度開催の岡山県へとバトンが渡され、今大会が無事終了しました。

今大会では、高校生による発表が中止になってしまいました。楽しみにされていた方も多いと思いますし、何より練習を重ねてきた高校生にとっては残念であったことでしょう。また何かの機会でぜひご縁があることを願います。

## 第64回 全国高等学校PTA連合会大会 福井 大会報告

8月22・23日、大会テーマ「教育と考福～未来に引き継ぐ　知と恵み～」のもと、第64回全国高P連大会福井大会が、サンドーム福井を主会場に開催され、香川県より30校60名が参加、全国より約9500名が集いました。

22日、開会式・表彰式の後、脳科学者　茂木健一郎氏による『今求められる考福脳～脳科学者からの提案』と題した基調講演が行われました。「欠点のすぐそばに長所がある」これは自分の個性を認めることから始まり、適材適所の言葉どおり、人の話をよく聞き、人の能力を見極める力をつけ、全部自分一人でやるのではなく、個々の長所を引き出してチームでやることが大切であるということ。そして、初めてのことやできないことに挑戦した時、また、できないことができるようになった時に脳は喜び、感動し、ドーパミンが出る。他人を羨ましいと考えず、今の状態が幸せであると感じることが大事であるという「学びと幸せ」についての講演でした。テレビ等で拝見する以上に気さくな雰囲気にあふれ、大きな手振りで愉快なエピソードを交えながら、熱いメッセージを発していただきました。

分科会は7会場に分かれて行われました。参加した「全国高P連研究発表」では、進路対策委員会（25年度は本県泉会長が所属）による研究発表として、第1部「第6回高校生と保護者の進路に関する意識調査2013から～社会環境の変化と進路選択～」と題し、（株）リクルート　小林　浩氏による調査結果に基づく講演がありました。続く第2部では高校生・保護者・教員をパネリストに「進路選択と親子のコミュニケーション」のテーマのもと座談会が行われました。それぞれの立場から本音の思いを聞くことができ、共感できる部分・改めたい部分等、自分の状況に置き換えて考えさせられる座談会でした。

翌23日は、パワフルで素晴らしい高校生アトラクションから始まり、恐竜発掘件数日本一を誇る福井県の県立恐竜博物館の特別館長　東　洋一氏による『福井の恐竜』～アジア、そして世界へ～と題した記念講演がありました。発掘の歴史を紐解きながら、実際の発掘の様子などを紹介していただきました。

講演後は閉会式に移り、福井大会実行委員長より参加の皆様へ感謝の言葉が述べられ、次期開催地の岩手県へと高P連旗が引き継がれ、盛況の中閉会しました。

この大会を通して、子どもたちの健全な成長と幸福を実現するために、PTAが求められる役割の重さについて学ぶことができたのではないでしょうか。

## 全国高P連 会長表彰

～おめでとうございます～

福井大会において香川県から受賞された個人・団体表彰者（校）は次のとおりです。

◆個人表彰

・松崎　朝浩　氏
（三本松高校前PTA会長）

単P副会長1年
単P会長2年
県高P連副会長2年

・山本　昌司　氏
（高松工芸高校前PTA会長）

単P副会長1年
単P会長2年
県高P連理事1年
県高P連副会長1年

◆団体表彰

・香川県立高松桜井高校PTA
・香川県立善通寺第一高校PTA

高松桜井高校　松岡会長
善通寺第一高校　森末会長